

## 南アフリカで急増する外国企業の直接投資

～外資進出の効果により固定資産投資の伸びは中長期で10%を超える伸びに～

2006年4月24日(月)

B R I C s 経済研究所 代表 門倉 貴史

E-mail: [postbrics@yahoo.co.jp](mailto:postbrics@yahoo.co.jp)

～要 旨～

近年、南アフリカへの直接投資額が急増している。南ア政府は同国への外資進出に関して、基本的に出資制限をしていないため、もともと外国企業が進出しやすい状況にあった。2005年の実質経済成長率が前年比+4.9%となるなど、最近では南アの経済成長が加速しており、外資の新たな進出先として注目が集まっている。

南アフリカ準備銀行が発表している国際収支統計によると、2005年の対内直接投資額は404億8800万ランドと、2004年の51億5500ランドの約8倍の規模に達し、対内証券投資額を上回るレベルとなった。

2005年の対内直接投資が急増したのは、英国のバークレイ銀行がアブサ銀行の株式の60%を総額330億ランドで取得(2005年5月)したことの影響が大きい。

もちろん、対内直接投資の増加は金融の分野だけにとどまらない。素材産業では、2005年中に、オランダに本拠を置くミッタル・スチール(80億ランド)や、インドのタタ・スチール(6.5億ランド)などが南アフリカへの巨額投資を行った。

ダイムラー・クライスラー、ゼネラル・モーターズ、フォルクス・ワーゲンなど海外自動車メーカーの南アフリカへの進出も相次いでおり、2005年に認可された海外自動車メーカーによる直接投資の総額は70億ランドに達する。日本のトヨタ自動車は世界戦略車「IMV(革新的国際多目的車)」の南アフリカでの生産を2005年4月から開始した。

このまま外国資金の流入が続けば、南アフリカは中長期的に投資主導の高成長を続けることが可能となる。固定資産投資の伸びは、2003年に+8.3%となった後、2004年には+8.8%へと加速、今後5年間は+10%を超える伸びが期待されている。もっともGDPに占める固定資産投資の比率は2004年時点で16.5%程度にとどまり、高成長を続ける有力新興国が軒並み20%を超えていることから比べると投資の力不足は否めない。外資の導入をさらに加速させるためには、遅れ気味となっているインフラの整備を進めることや、労働力の質を高めることが重要な課題となる。